
聴覚障害のバリアフリー

博士補聴器

ほとんどの健聴者が手話を使えない中、どのように聴覚障害のある人とコミュニケーションを取れば良いのでしょうか？以下の『聴覚障害コミュニケーション方法』をご覧ください。これらのことは日頃から行えます。

聴覚障害コミュニケーション方法

1. 誠実に接してください。必要に応じ、ペンと紙を用意し筆談を使ってください。
2. 聴覚障害がある人の周囲の安全環境に配慮してください。聴覚情報が不足しているところでの事故を防ぎます。例えば、前から熱々の鍋が運ばれてくる場合、聴覚障害のある人の前を避けて持ってくるように配慮してください。
3. 会話前に聴覚障害のある人の注意を引きます。（手を振ったり、軽く肩を触ったり、名前を呼んだりします）50cm以上の距離を保って、視覚的に見えるようにします。
4. 会話前に最初の会話のトピックを説明します。会話がスムーズに進められる準備になります。それぞれの言語能力には個人差がある為、ゆっくりと話します。聴覚障害のある人は読唇とジェスチャーを理解しやすくなるでしょう。
5. 会話時は、雑音の多い場所や、暗くてよく見えない場所を避けた方が良いでしょう。ボソボソしゃべるのではなく、口元がはっきりと見えるように、発音もはっきりと、一般的な会話音量で、ゆっくりと話します。食べながら話すのはあまり良くないでしょう。逆光が強い場所を避け、視覚的に口元が見やすいと良いでしょう。
6. 3回繰り返しても、会話が伝わらない場合、その他の方法を使ってください。身振り手振りや、ジェスチャーで言葉を表したり、筆談を使ってください。コミュニケーションを諦めないことは、聴覚障害がある人を尊重することになるでしょう。もし、長い間、コミュニケーションが出来ない場合、聴覚障害がある人となない人は大きな壁ができてしまいます。コミュニケーション

を取る為に間に適切な人を介して改善することもできます。

7. 顔の表情、手話、身振り手振りやジェスチャーで十分なコミュニケーションをとる事もできます。例えば、『田中さんは私達に10時にそのオフィスに書類を取りに行くように言いました』という会話は、身振りで話し言葉と合わせて伝えると良いでしょう。『田中さん/言った/10時/オフィス/書類/持つ』

8. 丁寧な会話を心がけてください。忍耐強くコミュニケーションし、冷たい態度をとることは避けてください。会話に参加するように促し、発言と説明させるタイミングを持ちましょう。しかし、過干渉は避けてください。

9. 一部の聴覚障害をもつ人はまだコミュニケーションのトレーニング中であることがあります。彼/彼女の考え方を多く聞くように会話し、『はい(YES)』『いいえ(NO)』の質問の繰り返しにならないようにします。それは双方の誤解を避けることにもつながります。出来るだけ多くの時間を使い、はっきり、ゆっくりと表現すると、お互いの会話内容は必要十分になり、そして、考える時間的な余裕もできます。